

こども園経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度こども園経営の重点(短期経営目標)
1 生活に必要な習慣・態度を身に付け、健康な心と体を育てる。 2 自ら様々な環境に関わり意欲的に遊ぶ中で豊かな心を育てる。 3 身近な人や地域に関わり、思いやりの心や人権意識、規範意識の芽生えを育む。		○学園内での公開保育と実践報告研修を通して、実際に園児が活動を進める姿や保育教諭の関わりや言葉掛けなどを参観してもらうことで、乳幼児期の大切な関わりや捉え方などを共通理解することができ、小学校との連携についても検証することができた。 ○保育教諭間で連携をとり、活動内容に応じた場や人数、音量など環境構成の工夫をし合うことで、少しずつ落ち着いて生活や活動を進めることができるようになった。 ○園児一人一人の気持ちの安定を図ることを第一に考え、園児の思いを受け止め、寄り添い関わることで、気持ちに折り合いをつけることができる園児が増えた。 ○朝の体の目覚めや体づくりのため、年間を通して計画的に体操やマラソン・サーキットなどを取り組み、園児同士や保育教諭と楽しみながら進めていくことができた。 △園児の姿を受け止め、寄り添う大切さを職員間で共有し同じ方向に向かって教育・保育を進めていくよう繰り返し話し合いを進めてきたが、それぞれの保育の考え方の違いから保育の進め方や関わりについて共通理解や連携に難しさを感じる時があった。	・一人一人が安心安定できる環境を整え、意欲的に生活や遊びに向かう中で基本的な生活習慣を身に付け、自立心を育む。 ・園児自らが周囲の環境に関わり活動する充実感を味わいながら、発達に必要な経験を積み重ね豊かな心を育む。 ・いろいろな人との関わりを通して、自分の思いや考えを伝えたり、人の話を聞いたりする等、コミュニケーション能力と思いやりの心を育む。 ・園児のあるがままの姿を温かく受け止め、自己肯定感を育み、相手の良さや多様性を認め合える柔軟な心を育む。 ・家庭、学校、関係機関及び、地域との連携を行い、充実した教育保育を進める。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）
保幼小中 一貫教育 の推進 (保幼小 接続)	・弥栄学園の教育目標を踏まえ学園の基本方針に基づき、取組を進める。 ・小学校との連携を密にし、スムーズな接続を図る。	・弥栄学園の重点課題と園児、児童、生徒の実態を把握し、不登校の解消などについて取り組む。 ・弥栄学園の諸会議や公開授業・保育などに参加し、全職員でスタートカリキュラム、アプローチプログラムの検証を行いながら、実践を重ね、幼少期に育成する資質、能力を明確にして、小学校への滑らかな接続を図る。	○1園1小1中となり、その特色を生かすために何ができるのか学園内の会議や部会で考えて取り組んだ。その中で、各校園の指導や校風等を理解して互いに学び合うことで、10年間を見通した園児の支援の仕方等を考えることができた。 ○園小連携の中で、小学校と園生活の流れを共有し合い、安心して学校生活を過ごせるようスタートカリキュラムの見直しを図ることができた。 ○隣接している小学校のフェンスを曜日により中間休みに開放して交流を図ったことで、より1年生に親しみをもち交流活動を深めることができた。

教育課程	・保育教諭との信頼関係を基盤に安心、安定の中で園生活を楽しみ、自分の力で行動する充実感を育む。 ・基本的生活習慣を身に付け、見通しをもって行動する園児を育てる。 ・自分なりの言葉で表現したり、相手の話を聞こうとしたりする意欲や態度を育てる。	・一日が気持ちよく迎えられたり、送れたりできるように挨拶の大切さを知らせたり、人とつながる心地よさを感じられたりするような対応に心がける。 ・友達と一緒に体操、マラソン、サーキット遊びなど、体を使った遊びを積極的に取り入れ、健康な体づくりをする。 ・園内外の自然体験を通して、感じたことや考えたことを様々な方法で表現できるようにする。 ・一人一人の心情や発達を見取り、園児に寄り添い居心地のよい環境づくりや関わりを進めていく。 ・絵本などに親しみ、言葉の楽しさや美しさに気付き思いを巡らせ保育教諭や友達と同じ世界を共有し、心通わせる経験をする。	○登園時や活動中、気持ちが不安定になる園児の様々な姿があったが、寄り添い自己決定して行動できるよう援助をしてきたことで、落ち着いて生活する園児の姿が増えてきた。 ○登園してきた親子を5歳児の挨拶当番が迎える活動が3年目を迎えた。5歳児の元気な挨拶で園全体が活気づき、1日の良い始まりとなった。一緒に並んで玄関に立つ年下の園児の姿もあり、5歳児の姿はよい手本となっている。 ○発達に応じた体の動きを年齢ごとに考え、年間を通してサーキット遊びや運動を行うことができた。繰り返し活動することで、健康な体づくりができた。 △天候や気温などを考慮すると散歩に出る機会がもちにくく、いろいろな地域の自然に触れる機会が少なかった。 ○弥栄学園一斉に取り組んだ『家庭学習頑張り週間』を通して、絵本貸し出し回数を増やし絵本に触れる機会をつくることができた。
子育て支援	・保護者の子育ての不安や悩みに寄り添い、喜びや楽しさを感じられるように支援をする。 ・未就園児の子育ての不安解消を図り、楽しく子育てができるように支援する。	・保護者が園児の成長に気付き子育ての喜びを感じられるように登降園時に園児の日々の様子を伝えたり、園だよりやクラスだよりの発行や保育支援システムでの配信をしたりする。 ・保護者の就労や家庭事情、子育ての悩みや不安、ストレス等配慮し、悩みを抱えている保護者への相談にのったり、リフレッシュ支援を行ったりする。(個人懇談、一時預かり保育等) また、不適切な養育等が疑われる場合は、関係機関と連携し適切な対応を図る。 ・こども園や地域子育て支援センターで、未就園児の親子や、出産前の保護者が育児を楽しんで行えるように相談にのったり、遊んだりできるようにする。	○保護者に行事や活動を知らせるために保育支援システムを通じて配信をした。特に乳児は写真で日常の様子を伝えることで、保護者から信頼を得ることができた。 ○園児の様子や面談等から家庭事情や保護者の悩みを知ることができた。その都度園児や保護者を見取り、寄り添い丁寧に対応することに努めた。また時には、関係機関と連携を図り、保護者や園児の支援を行った。 ○地域子育て支援センターを通して、入園前の子どもの遊びの姿を知ることができた。また、保護者の入園に関する悩みや不安等の相談にのり、園児が安心して入園できる支援につなげることができた。
研修 (教員の資質向上・人権教育)	・園児一人一人の発達や家庭環境を考え、温かい関わりで支援できるよう職員の人権意識の向上を図る。	・園児のいろいろな姿を受け止めたり、寄り添ったりしながら自信をもって支援ができるような方法を学び合う。 ・日常的に保育内容についての話し合いの場をもち、保育を振り返り、園児一人一人によりよい関わりや支援が行われているかなど園内研修を行い、共通理解できるような職員会議をもつ。	○職員間でその都度、園児の姿から背景を見取り、支援の仕方を考え、共通理解しながら保育を行うことができた。多面的に園児を捉えようと職員間で話をする機会が増えたことで、いろいろな姿を見せていた園児が落ち着いて過ごせるようになりつつある。 △園内研修の参加人数や時間調整など、計画的に進めるための工夫が難しかった。
次年度に向けた改善の方向性	○園児一人一人に対する職員の人権意識の更なる向上に努め、安心安定して生活し意欲的に遊びに向かう園児を育成する。 ○様々な地域の特色を教育・保育活動に活かし、豊かな心と健康な体を育む。		